

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570512632		
法人名	社会福祉法人 久盛福祉会		
事業所名	グループホーム田園		
所在地	秋田県由利本荘市岩城富田字根本10-22		
自己評価作成日	令和5年2月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.akitakenshakyo.or.jp/kaigo-koukai
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人秋田県社会福祉士会		
所在地	秋田県秋田市旭北栄町1-5 秋田県社会福祉会館内		
訪問調査日	令和5年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・1人1人に得意なこと、出来る事、出来るであろう事を理解し、共に生活している意識を持ち、社会と繋がり、感謝の気持ちを大切にしている。 ・季節感を感じられるよう旬の食材を使った食事又、健康面、栄養面にも気を付けバランス良く、嗜好に合わせて食事提供し、一緒に食事作りや、片付けを行い、グループホームとしての役割、目的として意識している。 ・その日の状態、気分、意向に合わせて外出など、季節を感じられるようにしている。 ・年2回の総合防災訓練を実施、法人内とも連携し、職員全員が防災意識を高めている。畳スペース、机・椅子がありADL常態、好みに合わせ過ごす場所を選択できるようにしている。 ・天窓や大きな窓から入りこむ光が明るく照らし、入居者、職員とも笑いが絶えず明るい雰囲気です。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所内は清潔感があり感染対策も十分にされています。天窓からの採光もあり館内は明るく居心地の良さを感じられます。利用者1人1人の個性を尊重した対応がされている一方で、安全面にも配慮し利用者の行動ができる限り制限される事のないように取り組んでいます。また、積極的な延命等を望まず医療行為が伴わない方に対しては利用者・ご家族の希望に応じて事業所での看取りも可能です。災害時や日々の健康管理面でも法人内での連携体制がとれています。</p>

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に掲示し、職員全員がその理念を共有し、基本的な立ち返りとしている。入居者一人ひとりに沿うように実践につながるようにつとめている。	法人の理念を踏まえた事業所の理念を職員全員で毎月の会議で確認し実践につなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス流行で地域との日時的交流はほとんど見られなかった。最近になり感染対策行い、短い時間ではあるが、買い物や、床屋に出かけることができた。	コロナ感染症の影響から地域との交流はほとんどなくなっているが、ボランティアの方から再開の相談が入る等、地域とのつながりは継続されている印象を受けます。	今後はボランティアの受け入れを再開していく事も検討されているとの話がありましたので、そうした動きを期待しています。
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	感染症予防からほぼ行えていない。運営推進会議で日々の様子をスクリーンでご覧いただいたり、グループホームについての理解や生活について伝え地域貢献につとめている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症予防のため休止していた対面での開催を再開。入居者、町内の有識者、市・消防職員参加し映像などで日常の様子を伝え、意見を頂きサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2か月に1回実施されています。地域住民や行政職員、ボランティアの方が参加されています。その中で施設の取り組みの紹介や住民からの質問に答える等し意見交換が行われています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席を頂いている。法人、管理者地域ケア会議に出席し空き状況なども情報を共有している。法令に係る疑問についてはいつでも問い合わせに答えていただける関係を築いていけるように努めている。地域包括支援センターから空床情報を関係機関に知らせている。	運営推進会議での関わりの他、毎月の地域ケア会議での意見交換の機会もあります。その中で、施設の空き状況を報告したり、法令等に関する問合せ等を行い、協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修会で身体拘束、虐待防止に関する勉強会行い取り組んでいる。緊急やむを得ない状況体制も理解している。毎月のユニット会議、事故防止委員会報告等、職員間で日常的に意識し行っている。	身体拘束は行われていません。身体拘束や虐待防止について年2回学習会を開催し学んでいます。事業所の施錠は18時から5時までとなっており、必要以上に施錠しないように取り組んでいます。最近ではスピーチロックについて高い意識をもって取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関しご家族からの質問等がある場合は、法人相談室と連携し対応できる体制にある。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時は、ご本人、ご家族と面談を重ね十分な時間をかけ確認している。懇切丁寧な説明に努めている。改訂などに際しても速やかに文書を交付し説明同意をいただいた上でサービス提供をしている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	法人としての意見苦情を受け付ける仕組みがある。利用開始時に機関の紹介および掲示、意見箱の設置を説明している。又、日ごろより入居者からの意向や思いが理解できるように言葉かけに配慮している。又、ご家族が意見要望を言いやすいようこちらから生活についてのご意向を電話連絡時、面会時に聞くようにして運営、ケアプランに反映している。コロナウイルス感染防止から推進会議にご家族の出席はできていないが、入居者参加し意見、要望を反映できるようにしている。	コロナによって面会者も減ってきていますが、事業所から家族へ連絡する際に意見や意向をうかがえるように努めています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	月1回のユニット会議では、細かなケアの見直しや業務改善について話し合いを行い実践に繋げている。議事録を法人内で回覧し、グループホームの活動が全体で見えるようになっている。毎月の法人運営会議に管理者が出席し情報を共有している。職員の意見や提案が反映されようになっている。	毎月のユニット会議や日々の申し送りの中で意見を聞きながら、職員の意見が運営に反映されるように努めています。挙げられた意見について事業所で対応できないものについては、法人の運営会議に報告し検討する仕組みが取られています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は東京事業所の運営にも参画し広域的な情報共有とケアの質の向上に努めている。地域のGH連絡協議会に所属しているが、コロナウイルス流行から対面での会議等行えず。会を通じ情報交換を図っている。相互の交流は行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員はリロケーションダメージをよく理解し、初期の関わりには特に配慮している。入所以前に本人や家族からの情報を頂き、自分史(フェイスシート)作成しケアに活用している。性格や好みに配慮し気持ちを汲みながら信頼関係を築けるよう努めている。慣れるまでは丁寧に説明し寄り添うケアをしている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今まで在宅介護の苦労や大切にしてきたことを理解し、入所時の暫定プランに要望を反映している。入所後は利用の状況を細めに報告しながら、自宅ですしていたことや前サービスでの継続ができるように支援している。普段の様子などの状態報告を密にし職員と家族の信頼関係の構築に努めている		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意とすること、できる事、できるであろう事、好きなことを活かし日常の支援している。日ごろより感謝の気持ちを都度つたえ共に生活している。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活のケアプランについて、本人、家族の思いを反映できるように共にプラン作成している。状況について細かく報告し、共に支えられるように思いのくみ取りには特に注意しながら、日々の面会や外出、買い物などご家族としてできる事はお任せして共に支えていく関係をきずいている。コロナウイルス流行で行えていないが、年間計画に家族交流会がありご家族との絆を図り楽しめる行事企画をしている。感染状況見ながら、外出や外泊機会がより多く持てるように本人からの意向や家族のできる事を伝え支援を続けていく。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	感染予防の為、家族以外の方々とはほとんど面会など出来ていない。家族や大切な人へは本人自ら電話をかけたたり、手紙のやり取りが出来るように支援に努めている。	家族以外の友人等との手紙や電話のやり取りをされる利用者もいらっしゃいます。また、行き慣れた床屋を利用し続けられるように支援されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格、生活歴、病状の進行など理解し、入居者同士支える関係作りに配慮している。席などトラブルにならないようにその都度対応し、職員紹介しながら支援に努めている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族のご希望により、他の事業所、法人内サービス住み替えされる方へ、面会に行き様子を伺ったり、移動した職員もGHへ面会に来たりしている。ご家族の要望などお聞きし相談支援に努めている。		
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努、これが困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーション、会話、行動、表情から希望、思い等確認している。連絡ノート活用し、常態の把握の共有に努め、ケアプラン作成にも本人本位なるように心がけている。	日々の関わりの中で、利用者の意向を伺っています。また、ご家族等からの聞き取りを通じて本人の生活歴からの把握に努める等しています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、ご本人、ご家族との面談でお聞きしアセスメント表、フェイスシートと合わせ把握に努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	半年に一回ケアカンファレンス行っている。状態の変化に応じ、職員全員でその都度又は毎月の会議でカンファレンス行っている。	半年毎にカンファレンスを開催しています。施設職員で検討する他、主治医や家族の意向を聴取し介護計画に反映させています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入、申し送り時等でも情報の共有に努めている。毎月の会議でケアに関する話し合いを設け計画の見直しに努めている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染予防から活用が出来ていない。感染対策しながら、床屋、商店など利用に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医、かかりつけ歯科医、緊急受診先を確認し適切な医療を受けられるように支援している、かかりつけ薬局と薬変更など説明と確認し、配達もしてくれる。歯科受診も適宜行っている。	ご家族の協力も得ながら、入所後もこれまでのかかりつけ医やかかりつけ薬局の利用が可能です。また、必要な方については歯科受診も行っています。事業所はかかりつけ医や薬局との連携が来ています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内看護師と医療連携を結び、週一回の訪問と24時間体制での相談できる体制にあり、体調の変化に合わせて、かかりつけ医、医療機関に受診に繋げる事が出来るよう支援している。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	今年度は入院者いない。入院があればかかりつけ医、入院した病院関係者との情報交換、相談に努めている。法人内の相談室とも連携し退院後の相談にも応じている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、看取りにかかわる指針を説明している。一年に一回意見、要望を確認している。グループホームでの対応出来る事を説明している。入居者の体調変化時に、今後の事について、かかりつけ医、他の病院医師からもご家族に説明し、支援に取り組みに努めている。	入所時に看取りの指針の説明を行い、施設での看取りに対しての理解を得られるよう努めています。また、年に1回程度重度化や看取りについての意見や要望を伺う等してご家族の意向を確認するよう努めています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習に職員が順次参加している。急変がよそされる対応や、事故発生時の話し合いなどマニュアルも使用している、		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練を行っている。昼夜問わず最小の人数での対応での訓練に努めている。地域の協力ボランティアなどはコロナ感染予防にてされていない。	年2回の避難訓練(日中・夜間)を行っています。日中想定においては人出が少ない場合を想定して行う等災害対策に対する意識の高さがうかがえます。発電機等の非常災害時の備蓄も法人と連携して確保しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとり、その人らしさを理解し、誇り、プライバシーを守るような声掛け、タイミングにも配慮をするように努めている。	認知症や身体拘束についての学習会等を通じて、行動が制限される事のないように適切な言葉使いやプライバシーに配慮した対応がされています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛の乱れ、衣服の汚れなど注意し、身だしなみが整えられるようにアドバイス、支援に努めている。本人から髪染めの要望等対応している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や旬のお物もメニューに取り入れている。その日のメニューを伝え、苦手なものや嗜好に合わないものを控えている。職員と一緒に準備や後片付けをしている。	残存機能を活用する事を意識するとともに、興味や関心にも配慮し利用者個人に合わせて役割を与え食事を楽しめる工夫をしています。献立は利用者の希望が反映されるように配慮されています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや嗜好に配慮し食物繊維、乳製品、季節の者を取り込んだメニューとしている。体重の増減を把握調整している。数種類の飲み物用意し、好みのものを提供している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後1人ひとり状態に合わせて口腔ケアを行っている。見守りや必要な方にはわかりやすい言葉かけで出来る限自立して行えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンで声掛け、その時の状態居合わせ無理に促す事はせずに支援を行っている。現在はテープ式おむつは使用していない。	利用者一人一人の排泄パターンの把握に努め、出来るだけトイレでの排泄が継続できるように努め、ほとんどの利用者がトイレで排泄しており、必要に応じて居室に簡易トイレを設置する等しています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のメニューの中に、乳製品、食物繊維など取り入れ、十分な水分、適度な体操など行い、それでも改善されない方はかかりつけ医へ相談し内服薬調整を行っている		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日を決めてはいる方、一番風呂のこだわる方、入りたがらないかたにも無理強いわせず、職員タイミング見ながら支援している。体調に合わせて半身浴、シャワー浴を行っている。	入浴は毎日午前中に行っています。入浴を嫌がる利用者に対しては、声かけを工夫したり、時間をずらす等して対応しています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や日中の活動量、その日の様子、体調に合わせて休憩の支援している。照明や居室も含めた温度管理にも注意し、寝具類の調整し心地よく休めるよう支援している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の説明書をファイルに添付している。内服薬の変更あるときは、個別ノートに残し、症状の変化に気を付け申し送るようにしている。かかりつけ医や、看護師とも適宜連絡し確認に努めている。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ドライブや散歩など気分転換を行っている。一人ひとり状態や希望に合わせて趣味活動、読書、ゲーム等できなくなっている所はアドバイスし達成感を感じられるような支援している。家事活動も入居者に合わせ、入居者協力しながら行えるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防からご家族、地域の方々の協力は難しかったが、自宅に職員やご家族と外出されたり、地域の商店、床屋等、ドライブ、散歩など支援に努めている。	コロナ感染症の感染状況等を踏まえ、少しずつではありますが、感染症に配慮しながら散歩や近場への外出を行っています。	今後はコロナ前のような外出を進めていきたいと職員より話がありましたので、感染対策をしながら徐々に以前のような外出ができていく事を期待しています。
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族のご理解を得ながらお小遣い程度のお金を所持している方もいて、自ら支払いや現金管理が出来るように支援している。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃消毒行っている。毎月の大掃除を行い清潔に努めている。外光がまぶしい方もおられ対応している。温度湿度管理行い、花や植物など心地よく過ごせるような工夫をしている。	天窓からの採光があり施設内は明るく過ごしやすいです。トイレは車椅子でも支障のない広さがとられていて清潔感があります。清掃が行き届いており感染対策も十分に行われています。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	休憩場所や談話ができるように椅子やソファー置いている。独りで居眠りし過ぎている方、思い思い入居者同士ですごされている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	限られた空間だが、家具や食器、テレビ、装飾品、写真など心地よく過ごせるように工夫支援している。	利用者個々に造花や興味のある物、大切な写真を飾る等して、居心地よく安心して過ごす事が出来るようになっていきます。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所は対面式で入居者の見守りをしやすい環境になっている。段差のない作りになっていて、シルバーカー使用歩行されている。死角場所はモニターを活用し見守りが行えるように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容